

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

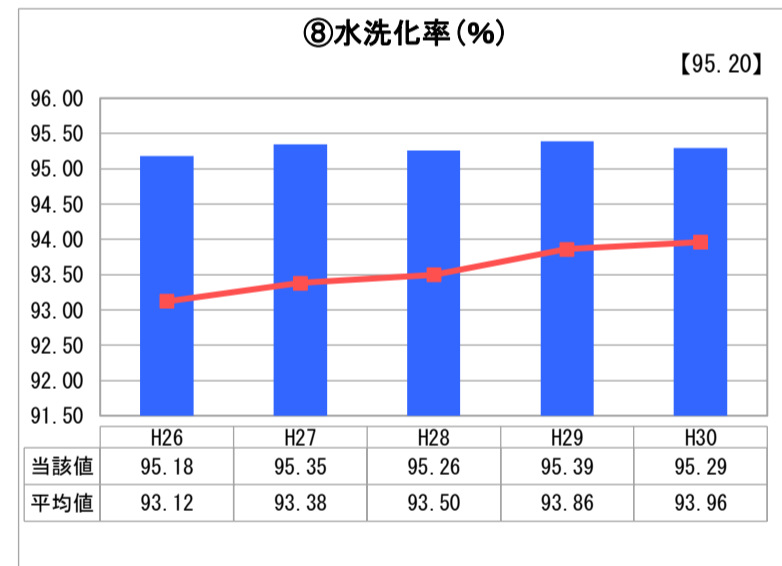
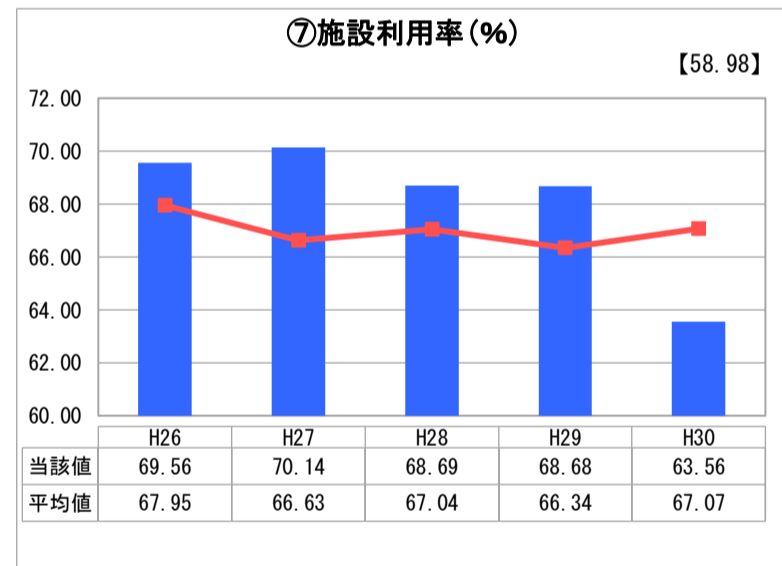
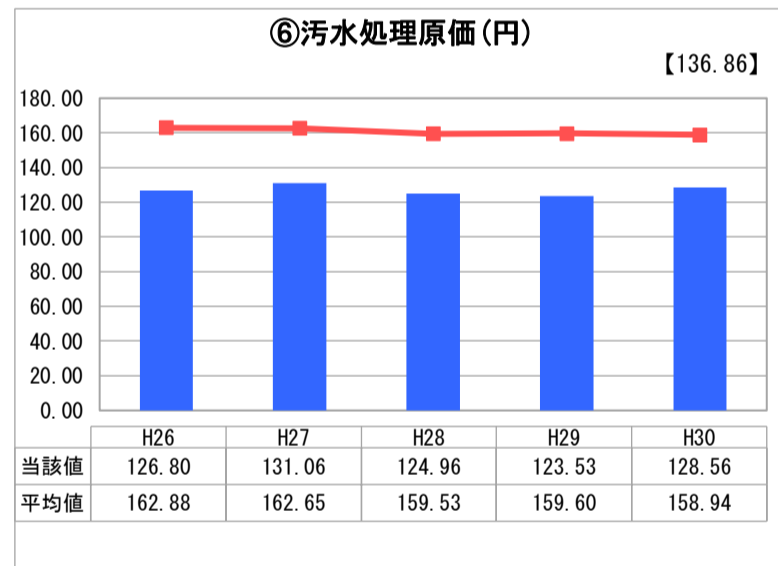
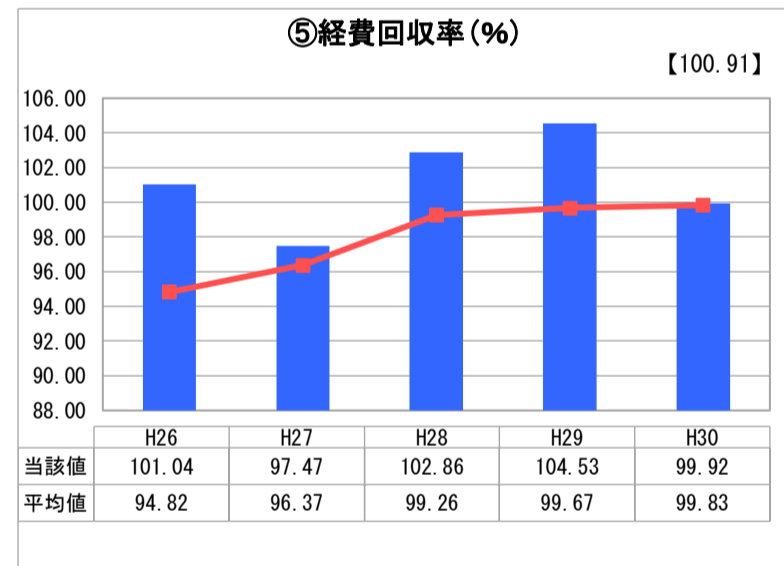
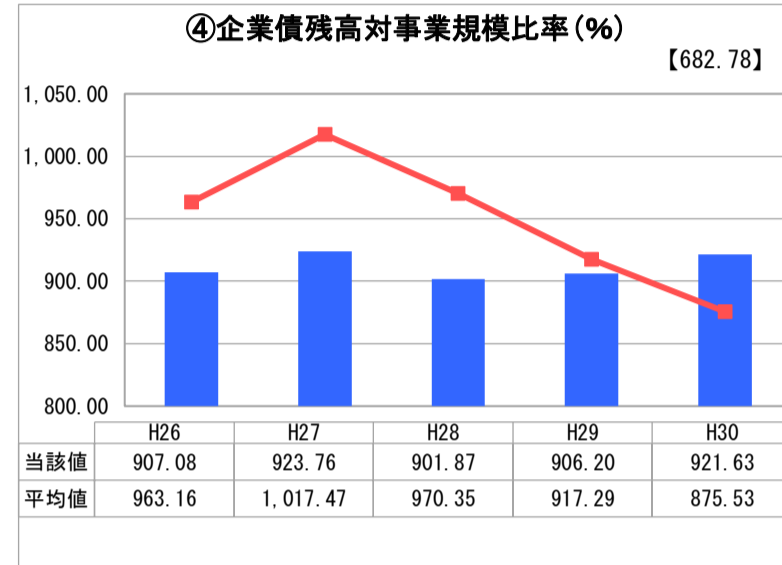
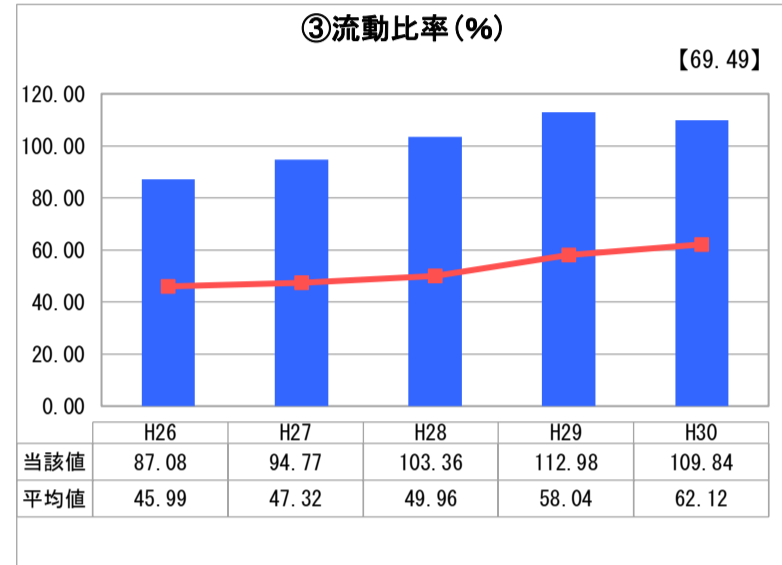
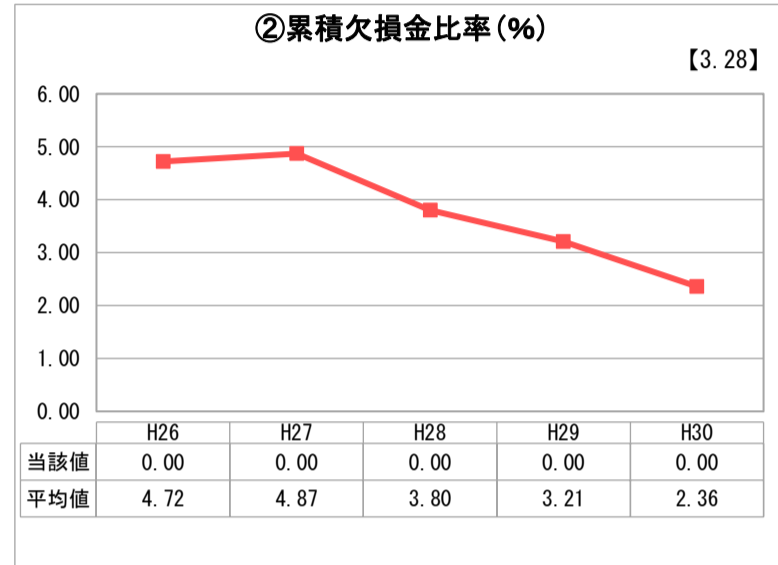
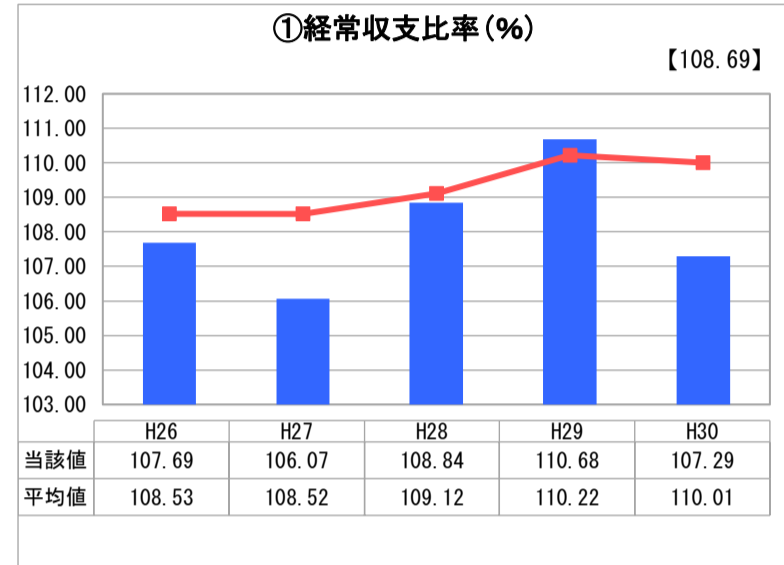
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	49.97	84.38	71.36	2,517

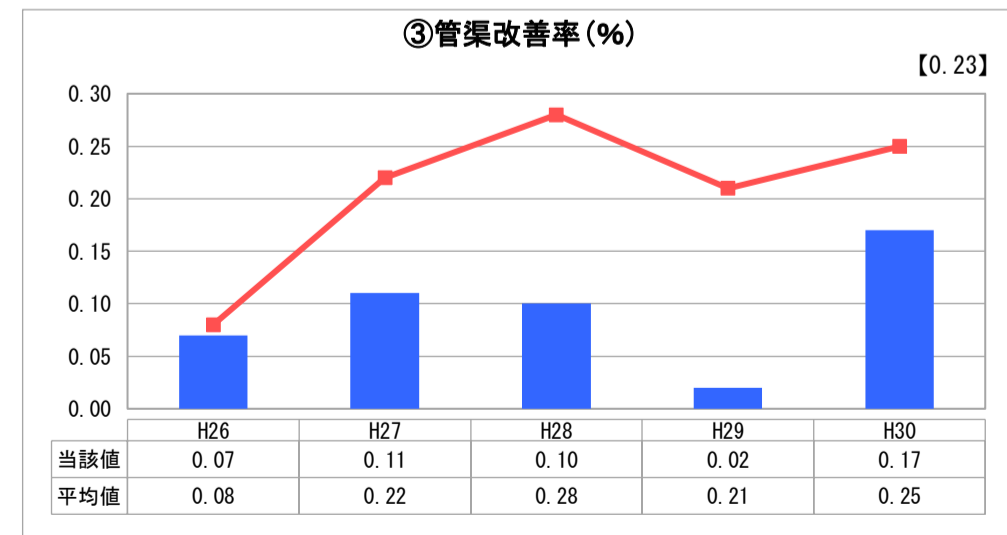
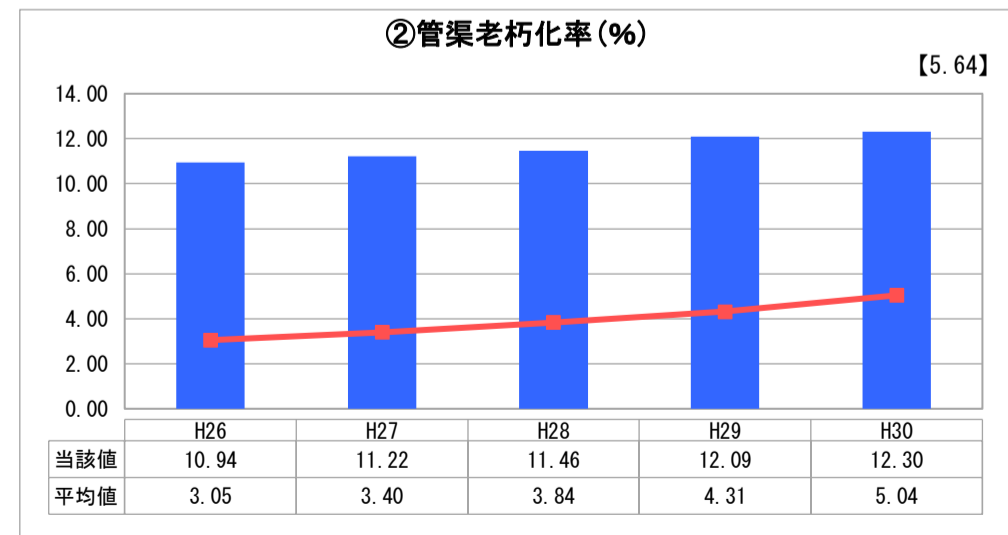
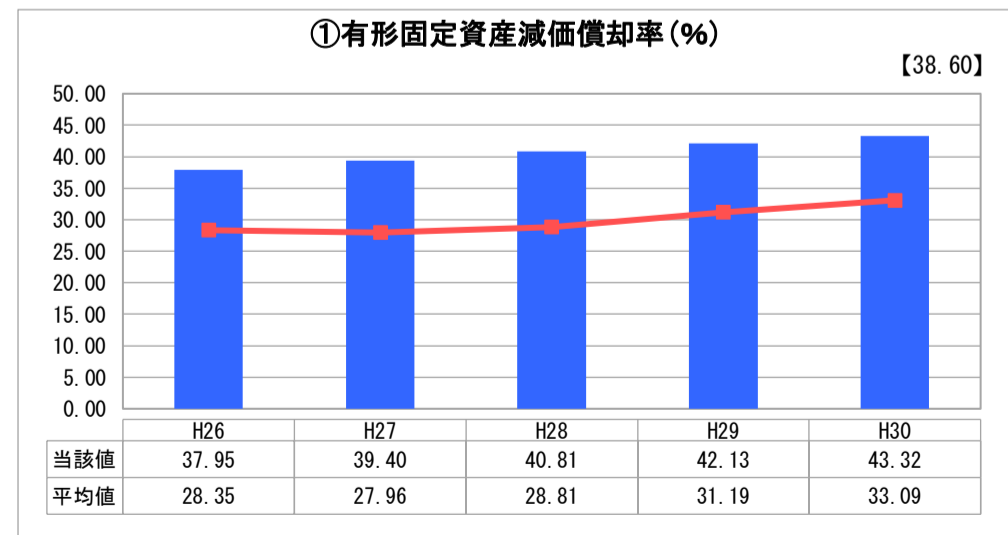
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
264,356	536.41	492.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
222,005	48.23	4,603.05

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上を維持しており、健全な事業経営を行っている。

「②累積欠損金」は、発生していない。

「③流動比率」は、100%以上を維持しており、適正な支払能力は確保している。

「④企業債残高対事業規模比率」は、類似団体と比較して平成30年度は高くなっており、今後の使用料収入に対する企業債残高の推移を注視する必要がある。

「⑤経費回収率」は、概ね100%を維持しており、汚水処理費に要した費用を使用料収入で賄えている。

「⑥汚水処理原価」は、類似団体と比較して低く推移しており、効率的な汚水処理が行われている。

「⑦施設利用率」は、類似都市と比較して平成30年度は低くなっており、人口減少等を踏まえて適正な施設規模となっているか分析していく必要がある。

「⑧水洗化率」は、類似団体と比較して高く推移しており、引き続き未接続者への接続を促す必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」及び「②管渠老朽化率」は類似団体と比較して高く推移しており、法定耐用年数を超えた施設を多く抱えており、今後は本格的に老朽化対策を実施していく必要がある。

「③管渠改善率」は、類似団体と比較して低く推移しており、今後は管路施設の更新を計画的に実施していく必要がある。

## 全体総括

平成30年度の各種経営指標は、これまでと概ね同水準で推移している

しかし、本市は類似都市よりも早期に下水道事業に着手しているため、施設の老朽化が進んでおり、下水道施設が一斉に更新時期を迎えている。また、人口減少等による使用料収入の減少も見込まれ、将来的には収益が悪化し、各種経営指標が悪化していく恐れがある。

今後とも「福井市下水道事業経営戦略」に基いた効率的な事業経営を行い、未普及対策やストックマネジメント計画に基づく最適な老朽化施設の改築更新に取り組み、安全・安心な下水道サービスを安定的に提供していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。